

連載
【第16回】

学び合う教室。 育ち合う学校。

再び、やんばるへ

沖繩は5月が梅雨。小雨を浴びながら、沖繩のやんばる地域、国頭村の辺土名小学校（仲松辰也校長）と国頭中学校（神元勉校長）、および名護市の東江中学校（比嘉明雄校長）を訪問した。いずれの学校も昨年7月から10か月ぶりの再訪である。同行者の齋藤智哉さん（國學院大學）は沖繩は初めて、永島孝嗣さん（麻生教育研究所）は沖繩には10年来毎年訪問し、国頭村の小中学校も2度目の訪問である。

「やんばる（山原）」は沖繩本島東北部の名護市以北の地域をさす。その最北端の国頭村は森林が95%を占める広大な地域で、人口約5千人、23%の土地が米軍の訓練場

となっている。この地域には五つの小中併設校と二つの小学校と一つの中学校がある。ここで「学びの共同体」の学校改革が着手されたのは2年前、当時教育委員会の指導課長であった神元さんが自ら国頭中学校の校長となって改革を主導し、教育委員会指導課指導主事の宮城尚志さんが昨年度、すべての学校に「学びの共同体」を導入し村をあげて改革がスタートした。その改革をサポートしたのが小橋川春武教育長である。小橋川さんは1年半前、「学びの共同体」の学校改革の希望を議会で語り、村議会議長の熱い支持をえて改革が本格化した。

は沖繩県のなかでも最底辺に位置し、村の単独の中学校である国頭中学校は県下でも有数の困難校と言われていた。2年前まで指導主事の宮城さんは毎日、警察か児童相談所を訪問しなければならなかったため、学校を訪問したくても訪問できない状態だったという。この現実を苦慮した神元さんが宮城さんと同行して、広島市祇園東中学校を訪問して「学びの共同体」の改革に深く共感して2年前から改革に着手し、昨年度から村の全8校が連帯して改革が本格化した。

その成果は驚異的である（本誌6月号「総力大特集」参照）。わずか2年で開校以来荒れが収まることのない国頭中学校において問題行動も不登校もゼロになり、七つの小学校の全国学力テスト調査では、沖

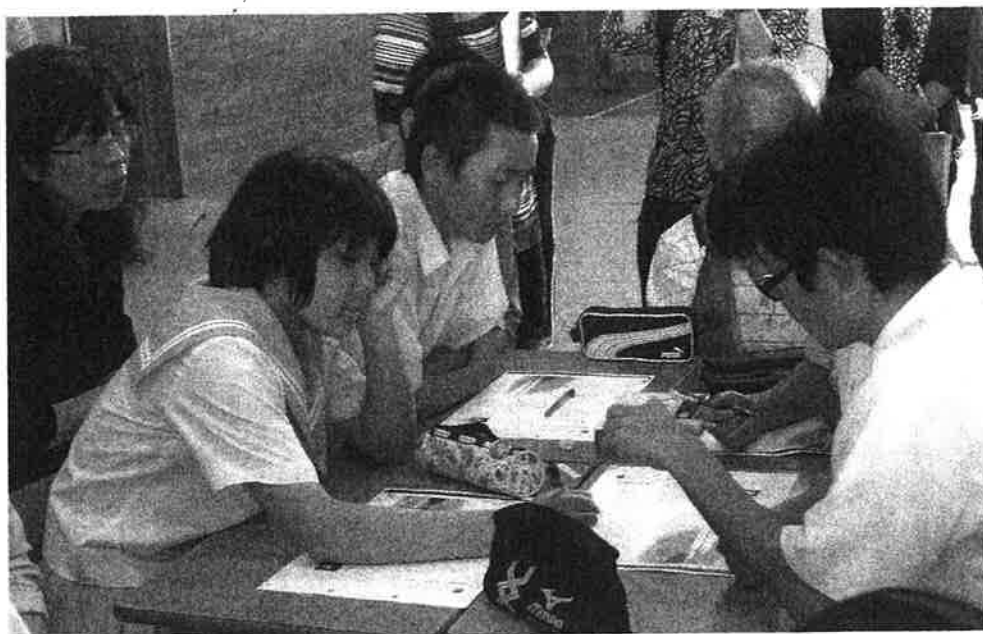


学習院大学教授・東京大学名誉教授

佐藤 学

さとう・まなぶ 1951年、広島県生まれ。著書には最新刊『学校見聞録』『教師花伝書』『教師たちの挑戦』（以上、小学館）等、多数。

改革の希望に燃える島、沖縄



授業「月夜の浜辺」(中原中也)の学びの風景。

縄県平均を超えて全国平均に到達し、国語のB問題(発展的学力)では全国平均を3点以上も超える快挙を達成した。沖縄県でも最低であった3年前と比べると快挙と言ってよい。ある小学校では、それまで低い点しか取れなかった4年生の子どもが100点を取れるようになり、その両親は家の部屋中に息子の100点のテストを貼って喜んでいるという。しかし、最も大きな成果は、学力の飛躍的向上よりも、子どもと教師の成長にある。現在、国頭村の八つの学校には一人の不登校の子どももいない。ければ、一人の問題行動の子どももない。どの教室を訪問しても、一人残らず学びに夢中になって取り組んでおり、一人残らず教師たちが協同で学び成長し合っている。小橋川教育長は「改革の最大の成果は教師の同僚性の構築にある」と繰り返し語る。

国頭村には地元出身の教師が少なく、ほとんどの教師は30km以上離れた名護市から通っている。しかも、1年単位の臨時採用の教師が全教師の半数近くを占めているため、毎年半数の教師が入れ替わり、教師の平均年齢は若い。この条件で改革を前進させているのは素晴らしい。その根幹に同僚性が息づいている。「ゆいまーる」(沖縄の島言葉で「助け合い・協力」の意味)の伝統が、教師たちの今日を支えているのである。

公開研究会の感動

5月24日、梅雨空の下、国頭中学校で公開研究会が開かれた。村内の全教師のほか、沖縄全域から多数の教師たちが参加した。宮古島など離島からも多数の参加者があり、那覇市銘苅小学校はバスをチャーターして全教師が参加するなど、昨年と比べて本島南部からの参加者が増えている。

神元校長と宮城指導主事の案内で、さっそく全教室を訪問した。どの教室も素晴らしいことに驚嘆した。10か月前に訪問したときも、開始してわずかの期間に、どの生徒も一人残らず授業に参加し、協同の学びが実現していることに驚いたが、今回は、

その学びが質的に向上していることへの驚きである。どの授業においても、50分の授業時間のあとになればあとになるほど、生徒たちは夢中になって学び、その集中が途絶える生徒がいない。これは昨年度は見られなかった光景である。

しかも、わからないままで固まってしまっている生徒がほとんどいない。まだ学力としては低い段階にとどまっている生徒も散見されるし、精神面やコミュニケーションに困難を抱えている生徒は少なくはないのだが、小グループの生徒たちが絶妙の関わりで、どの生徒も見捨てない関係を築いている。それによって、どの教室のどの授業においても、温かで柔らかな雰囲気であまれており、軽やかではずみのある学びが心地よく展開している。特に1年生は2クラスとも素晴らしい。すべての小学校で「学びの共同体」の改革を進めてきたことが、この1年生の教室の協同的学びに安定感をつくりだしている。

もう一つ驚いたのは、教師たちの成長である。国頭中学校は、今年も半数の教師が入れ替わった。そして2か月しか経ていないのに、どの教室でもコの字型の配置と男

女混合4人グループの協同的学びが定着し、教科書レベルの「共有の学び」と教科書レベル以上の「ジャンプの学び」が小グループの協同的学びとして組織されている。

この基本が徹底されていることにより、どの授業においても50分間一人残らず夢中になって学び続ける授業が成立している。もつと驚いたのは、どの教師も黒板の前に椅子一つにおいて、その椅子に座って授業を行っていることである。このポジションニングは教室に深い思考の探究的学びを実現する。全国に多数の「学びの共同体」のパイロット・スクールがあるが、すべての教師が椅子一つに座るポジションニングで授業を進めることができる学校は、国頭中学校だけだろう。

「すごいね」とつぶやいた私に神元校長は「教師よりも生徒たちが改革を継続させている」と答えた。そのとおりである。毎年半数の教師が入れ替わりながらも授業改革が進展しているのは、もつばら生徒たちの力によっている。生徒たちは「学びの共同体」が大好きなのである。ここにも同校から学ぶべき重要な事柄が隠されている。

改革の広がり

午後、ベテランの佐藤繁さんが3年生の国語「月夜の浜辺（中原中也）」の授業を公開した。「月夜の晩に、ボタンが一つ波打際に、落ちていた」で始まる詩がテキストである。天才的詩人である中原中也らしい象徴的で素晴らしい詩だが、この抽象的で象徴的な詩をこの生徒たちはどう味わうのだろうか。一抹の不安を抱きながら授業を参観したが、佐藤さんが中也が同時期に創作した「また来ん春」という2歳の息子の哀悼の詩を提示して、ジャンプの学びが一拳に実現した。その学びのジャンプの姿に同校の生徒たちのこの1年間の成長の大きさを感じ取ることができた。

もちろん、国頭中学校の授業改革には、まだまだ課題は残されている。神元校長は「もつと教科の本質にそつた真正の学びが授業の中心にならなければならぬ」と強調し、私は「ジャンプのレベルをもつと上げる」と「もつと女子生徒を多く指名し、女子生徒をもつと活躍させて全体を引き上げる必要がある」と指摘した。いずれ

にせよ、同校が向こう1年で学力も飛躍的に向上させ、沖縄県のトップレベルに躍り出て全国平均を大きく超えることはまちがないだろう。来年の訪問が愉しみである。

その夜、同行の教師たちと公開研究会の打ち上げに参加した。誰もが1年間の同校の発展を確信し、あふれるほどの幸福感に包まれていた。私も小橋川教育長に準備していたいただいた泡盛古酒「海乃邦」(43度)に酔いしれた。そして彼が片道3泊4日をかけて東京の大学に「留学」した昔話を聞くと私も40年前を思い起こし、彼と肩を組んで「沖縄を返せ」を歌い始めると、全員立ち上がって大合唱となった。

翌日、訪問した名護市の東江中学校も「学

びの共同体」の学校改革の途上にある学校の一つである。同校もかつては国頭中学校と同様、県下でも有数の困難校と呼ばれていた。しかし「学びの共同体」の実践を導入し始めてから不登校の数も問題行動の数も激減し、今では誰もが安心して学べる学校へと変化した。事実、昨年度と比べても、授業における生徒たちの反応が格段に良くなってきているし、何よりも生徒たちが明るく授業に参加しているのが喜ばしい。

東江中学校の場合、今後、4人グループの協同的学びをより多くの時間を割り当てて導入する必要があるし、ジャンプの学びをより高くより積極的に取り組む必要がある。まだ「基礎」の呪縛から脱しきれてい

ないため、「基礎」も「発展」も伸ばせていない。とはいえ、東江中学校の前進は、今後、県全体の学校改革の先導的役割をはたさだろう。幸い、名護市は「学びの共同体」の改革を推進するために、今年4月、村瀬公胤さん(麻生教育研究所長)を正規の研究員として採用した。10月には私の勤務する学習院大学と名護市教育委員会との協同の現職研修セミナーも開催される。座間味法子教育長の見識あるリーダーシップによって改革は着実に前進を遂げることを確信している。東江中学校の公開研究会を終え、島言葉「ゆいな、ゆいな」(焦るな、焦るな)と自分に言い聞かせながら飛行機に乗り、那覇空港をあとにした。

学校見聞録

学びの共同体の実践

学習院大学教授
日本教育学会前会長

佐藤学 著

好評発売中!



教育改革のすべての答えは「現場」にある!

訪問した学校数、20か国以上、2800校。「行動する教育学者」が見た、変わる学校・変わる教室

定価・1680円(税込)

四六判 320ページ ISBN978-4-09-837399-4

小学館